

## 「ICT活用指導力」について、遠慮がちに答えていませんか？

3月といえば、文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の時期です。この調査では、先生方の「ICT活用指導力」に関する調査もあり、ご自身のICT活用指導力を見直す機会になっています。

しかし、宮城県内の先生方の調査結果を拝見していると、他県の先生方と比較してもICTを活用した授業実践等を十分にされており、ICT活用指導力について「できる」「ややできる」といえるレベルにもかかわらず、「できる」「ややできる」と答えるのに躊躇されているように感じています。

なぜ先生方は「できる」「ややできる」と答えるのを躊躇されているのか考えると、現状の実践に満足していません。より実践をされている先生方と比較したりするなど、ご自身に課している目標が高いのではないのでしょうか？そのことは、絶えず研究と修養に努めなければならない教育公務員としては、素晴らしいことです。しかし、すでに「できる」「ややできる」と答えられる実践をされておられますので、ぜひ、自信を持って「できる」「ややできる」と答えていただければと思います。

## ICT活用指導力の調査で「できる」「ややできる」とは、どんなこと？

### 総合教育センター「タブレット端末活用研修パック『+タブレ 2.0』

多くの先生方は、一斉学習でのICTを活用した資料提示等は「できている」と思います。一方で、児童生徒がICTを活用する協働学習や個別学習については、不十分だと感じられている先生方が多いのかも知れません。

しかし、そんなことはありません。総合教育センターでは、協働学習や個別学習におけるICT活用を実践しようとしている先生方のための研修パック「+タブレ 2.0」を公開しています。この「+タブレ 2.0」の動画を見ただけであれば、「このくらいのことは私もできている」「調査で『できる』と答えていいのだ」と感じていただけるのではないのでしょうか？「できる」の入り口は、なんでもないことから始まっているのです。



「タブレット端末活用研修パック『+タブレ 2.0』」

### 文部科学省「リーディング DX スクール」

活用が進むと「+タブレ 2.0」の内容では、物足りなさを感じると思います。そんなときには、文部科学省「リーディングDXスクール」のポータルサイトの実践をご覧くださいと思います。「リーディングDXスクール」事業は、文部科学省が指定した小中高等学校（約200校）が、1人1台端末とクラウド環境の「普段使い」を推進し、効果的な授業（個別最適・協働的な学び）や校務のデジタル化（DX）のモデルを創出・普及させる取組です。

そのポータルサイトには、全国の実践校が取り組む「最新活用事例」が集約されています。コンテンツの1つである「指定校実践事例・動画」は、ICTを活用した授業動画を短時間で視聴することができ、ICTを使った授業の質を高めたいと考えている先生方におすすめです。

例えば、本県の事例として岩沼市立岩沼小学校のICTを活用して、児童に学習方法を選択させながら、深い学びの実現を図る実践が掲載されています。



「リーディングDXスクール」

## 伴走型で教育委員会や学校を支援する「教育DX推進訪問支援研修会」

今年度から総合教育センターでは、さらに学校でのICT活用、教育DX推進を支援するため、新たに学校や教育委員会が直面している授業や校務でのICT活用の課題について支援を行うことで、学校の教育DXの推進を図る「教育DX推進訪問支援研修会」を実施しています。

本研修会では、指導主事が教育委員会や学校にお伺いし、現状を整理するヒアリングを行い、相談しながら課題解決の手立てを模索し、研修会等を実施しながら課題解決に取り組みました。

教育委員会や学校がどのような課題を抱えていたのか、その課題解決のために、どのような伴走型支援を行ったのか、今年度の取組の例をご紹介します。

対象	課題	内容
教育委員会	情報化推進リーダーを中心に教育委員会全体で教育DXを推進したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の情報化推進リーダー研修会の企画・運営への助言</li> <li>● 市独自の教育DXを段階的に推進するためのICT活用ビジョンの作成支援</li> </ul>
小学校	校務DXをきっかけに、授業でのICT活用を推進したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 校務DXを着実に推進するための校内ポータルサイトの作成支援</li> <li>● ICTを活用した授業づくりをテーマにした研修会企画・運営の支援</li> </ul>
高等学校	生徒の生成AI活用を見据えて、教員の生成AI活用を推進したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の主体的な学びを促す生成AIを活用した授業実践への指導講評</li> <li>● 生成AIの活用実践を校内に広げるための校内研修の企画・運営の支援</li> </ul>
特別支援学校	校務DXや生成AIの活用を充実し、教育DX推進したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 校務フローの確認と課題点の整理</li> <li>● 校務DX推進と特別支援教育における生成AIの授業への活用をテーマにした研修会企画・運営の支援</li> </ul>
特別支援学校	ICT環境を整理し、生成AIを活用して指導の質の向上を目指したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ICT環境の点検と見直しに関する助言・支援</li> <li>● 該当校が抱える課題を解決するための生成AIの活用の仕方をテーマにした研修会企画・運営の支援</li> </ul>

ご担当者と一緒に、課題を整理し、改善への道筋を考え、研修会等の企画や運営を行うことができました。

私たち情報教育班としても、教育委員会や学校が悩んでいるリアルな声に直接触れることができ、大変学びの多い研修会となりました。

申し込んでいただいた教育委員会の皆様、学校の皆様、ありがとうございました。



(Gemini を用いて作成)

**次年度も、教育DX推進訪問支援研修会を実施する予定です。**詳細については、センターホームページで公開されている研修計画をご覧ください。興味のある教育委員会、学校の方々は、ぜひ、お申し込みください。申込多数の場合は、大変申し訳ありませんが、地域や学校種等踏まえて、実施校等を決定させていただきます。

(編集後記) 今回は、ICT活用の力を高めるためのコンテンツや研修会についてご紹介しました。毎日忙しくなかなか自己研修等に時間が割けないのが現状かと思えます。そんなときは、短時間で学べるコンテンツをつかって、効率よく学んでいけるといいですね。

[第48号担当 三浦]